

流行ニュース:

<ヒトと家禽における鳥類インフルエンザ A(H5N1)型、ベトナム>

ヒトから鳥類インフルエンザ A(H5N1)型が同定された。10 月末以来、ハノイ及び周辺地域で小児 13 例と成人 1 例の重症呼吸器疾患のうち小児 11 例と成人 1 例が死亡した。鳥類インフルエンザは通常鳥にしか感染しない。ヒトへの最初の感染例は 1997 年に香港で確認された A(H5N1)型であった。

* 家禽における高発病鳥類インフルエンザ:

A(H5N1)型は、ベトナムの南部 2 地域における家禽の高発病鳥類インフルエンザの原因として同定された。2003 年 12 月、韓国で A(H5N1)型の流行が起り、2004 年 1 月 12 日、日本で 6000 匹のニワトリが死亡した。どちらもヒトへの感染はない。鳥類インフルエンザ感染は多くの国で心配されている。

<重症急性呼吸器症候群 (SARS) 疑い例の発表、中国南部 (更新)>

1 月 8 日、中国南部広東省で SARS の疑い例があると発表され、感染源の調査が始まった。患者は 12 月 31 日から隔離治療されている Henan 省の 20 才の女性である。疫学調査と研究所の検査が進行中であり、患者の状態は現在安定している。100 人の接触者の中に疑わしい症状はない。1 月 5 日 Guangzhou の 32 才男性が SARS と診断されたが回復した。医療従事者を含む全ての接触者は、健康である。

* 広東省に調査チームが到着:

1 月 8 日に WHO と中国の専門家の合同チームが SARS 例の感染源を調査するため広東省に到着した。2002 年 11 月中頃に広東省で初めて現れた SARS ウイルスは正体不明の動物か環境的病巣からヒトに感染したと考えられる。前回の調査では、医療従事者や薬剤師は SARS の症状を熟知し適切な方法を導入する準備ができていたことが分かった。

今週の話題:

<ワクチン安全性に関する世界諮問委員会 (GACVS) 2003 年 12 月 3-4 日>

ワクチン安全性に関する世界諮問委員会 (GACVS) は 1999 年に WHO によって設立された。GACVS は 2003 年 12 月 3 4 日にスイスのジュネーブで第 9 回目の会議を開催し、次の事項を討議した。

* 鼻腔投与インフルエンザウイルスワクチン:

鼻腔から投与する新世代のインフルエンザワクチンで、ウイルスの排出と、ヒトからヒトへの伝染についての心配がある。アメリカでの実際の投与でその安全性が検討される。

* インフルエンザワクチンと神経系合併症:

不活化インフルエンザワクチンと神経系合併症との関係(ギランバレー症候群、多発性硬化症、視神経炎、6 23 ヶ月の小児における脱ミエリン神経症)をまとめたアメリカの医学研究所 (Institute of Medicine, IOM) の免疫安全審査委員会の結論を検討した。

* 妊婦へのインフルエンザワクチン接種:

GACVS は妊婦への不活化ワクチンの使用の勧告を検討した。インフルエンザワクチンの妊娠時のリスクと恩恵をよく考慮して使用するべきであると結論した。

* 小児のワクチン接種における非特異的作用:

発展途上国の小児における DTP、麻疹、BCG ワクチンの非特異的作用や副作用における罹患率や死亡数が 2004 年 6 月の GACVS 会議で報告される。

* ポリオ根絶運動における安全問題:

GACVS は、長期間経口ポリオワクチン使用の副作用の点から、根絶後の経口ポリオワクチン使用中止を決定したとの報告を受けた。

* ムンプスウイルス分離株のための国際調査研究所:

ムンプスウイルスの分子レベルの解明によってウイルスの感染様式や免疫原性の未解決の点が明らかにできる。将来のムンプスワクチンに対する質のコントロール向上につながるので、ワクチン内ウイルスの研究のための国際調査研究所の設立を推奨する。

* 黄熱ワクチンの安全性:

黄熱ワクチンには内臓と神経性副作用があり神経性のものは致命的ではない。内臓における副作用は年齢に関係している。HIV 感染患者には黄熱ワクチンは禁忌であるかどうか結論が出ていない。

* HIV 陽性患者における BCG ワクチン接種:

GACVS は結核の多い地域での幼児への BCG 接種の推奨は変更がないとした。HIV 陰性と陽性の幼児への効果や安全性については全住民を対象にして調査しなければならない。

* 天然痘ワクチン接種の安全性:

天然痘ワクチンの副作用として心嚢炎や拡張型心筋症が報告されている。

* 風疹ワクチンからムンプス、麻疹、風疹混合ワクチンへの切り替え:

風疹抗体陰性の産後の女性には風疹ワクチンのみではなく、風疹を含む混合ワクチンが必要である。

* アルミニウム含有ワクチンとマクロファージ筋膜炎：

ワクチン接種部位のアルミニウム含有マクロファージの持続は特別な症状や疾患と関係がない。ワクチンの安全性は http://www.who.int/vaccine_safety/en で公開中。

< 麻疹による死亡の世界的減少への進展、1999-2002年 >

2003年5月、世界保健総会は2005年末までに麻疹による死亡を半分に減らすという目標を達成する重要性を強調した。1999年から2002年までに世界の2億2000万人以上の小児が麻疹ワクチンを受けたことにより、世界の麻疹による死亡は29%減少した。特にアフリカでは35%減少し、全体の67%を占めた。

表1： 麻疹死亡の概算と減少率、地域別、1999-2002年

	1999年 麻疹死亡数の概算	2002年 麻疹死亡数の概算	変化 (減少率%)	全世界の減少への 割合 (%)
アフリカ	482 000	312 000	- 170 000 (-35%)	67%
東南アジア	243 000	196 000	- 47 000 (-19%)	18%
東地中海	104 000	71 000	- 33 000 (-32%)	13%
その他	40 000	35 000	- 5 000 (-13%)	2%
全世界	869 000	614 000	- 255 000 (-29%)	100%

* 編集ノート：

2005年の目標にむけてWHOとUNICEFは世界的な会議を主催し、規定通りのワクチン接種を強化し続けるとともに、全ての小児に2回の麻疹ワクチンを接種することが麻疹による死亡減少に極めて効果的だと合意した。

流行ニュースの続報：<インフルエンザ>

* 概略 (2004年1月3日まで)

インフルエンザ流行はヨーロッパやアメリカ合衆国に広がっているA/Fujian/411/2002様ウイルスに関係している。今シーズンのインフルエンザ感染はA(H3N2)型によるものである。先週の韓国におけるA(H5N1)型ウイルスの最新情報に続いて、他の農家への感染は報告されていない。ベトナムの2地域における鳥類インフルエンザの流行は鳥類インフルエンザA(H5N1)型ウイルスによる。この急速に広がりニワトリが100%死亡するウイルスで4万匹のニワトリが死亡し3万匹以上が殺された。ブタやアヒルの感染も報告された。更なる情報は <http://www.who.int/cst/disease/influenza/en/> で公開。

ベルギー²：A(H3N2)型の流行は第1週目(2003年12月28日から2004年1月3日)に減少した。

カナダ²：インフルエンザの流行はオンタリオ、クベック、ニューファンドランド、ブリティッシュコロンビアで報告されている。インフルエンザ様疾患(ILI)診察率は2003年第52週目から減少した。

クロアチア²：A(H3N2)型の流行があり、A(H3N2)型とA型ウイルスが確認された。

チェコ共和国²：A(H3N2)型の流行は第1週目に局所的で、ILI受診率は基準レベルを下回っている。

フィンランド²：A(H3N2)型の流行は広汎で、2003年の第52週目から確定症例が減少している。

フランス²：広範囲のA(H3N2)型の流行がまだ続いているが、流行は減少してきている。

デンマーク³：A(H3N2)型の流行は広がっていたが、ILI受診率は減少した。

ドイツ⁴：第1週目に局所的なインフルエンザの流行の増加が見られた。

イスラエル²：流行は2003年の第51週目から減少してきている。

ラトビア²：流行のレベルは低いままであるが、2003年の第49週目からかすかに増加している。

ノルウェー²：第49-50週目のピーク後、A(H3N2)型の流行はまだあるが、第1週目には徐々に減少してきている

ポルトガル²：流行は散発的で、第1週目にA(H3N2)型が検出された。

大韓民国³：B型が第49週目から報告されている。

ルーマニア⁵：A(H3N2)型は第52週目から急速に減少している。

スイス²：A(H3N2)型の流行が第1週に広がり、ILI受診率は増加している。

英国³：北アイルランド、スコットランド、ウェールズではILI受診率と共に流行が減少してきた。

アメリカ合衆国²：ILI受診率は今シーズンの初めより減少している。肺炎や死亡者が増加している。インフルエンザの流行は38の州で報告されている。

その他の報告：低度の流行がギリシア²、香港²、イタリア³、日本²、アルゼンチン²で報告され、ポーランド²では流行の報告はない。

参照²No.1/2,2004,pp.11-12、³No.50.2003,pp.430-432、⁴No.51/52,2003,p.440、⁵No.20,2003,p.180

(石原香織、寮隆吉、高田哲)